KIZUNA

きずな

No. 152
2020.9.1

日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

コロナの問いかけ

ベリス・メルセス宣教修道女会　弘　田　しずえ

コロナは、収束するどころか、先の見えない不安が、私たちの生活に、ひたひたと押し寄せています。「早く、前のような普通な当たり前の生活に戻りたい」という言葉が、聞こえますが、今までの現実が、当たり前なのかということを考える必要があるようです。ベリス・メルセス宣教修道女会は、世界各地で奉仕していますが、普通の当たり前が、日常的にいのちを脅かされる状況が「普通」という場所も少なくありません。新型コロナウィルスは、このような日常的な不条理を、より鮮明に暴き出し、イエスに従って生きる私たちに、チャレンジをつきつけているようです。

今まで日本でフィリピンの方々の司牧にかかわっていたフィリピン人のシスタージョイが、今年の始めからメキシコで奉仕しています。メキシコは、米国と国境を接しており、長年、とくに中米からの移住者が、米国との国境を目指して、メキシコの南から北までの 3,000 キロ以上の危険な旅を続けています。彼らの多くは、自国での貧困、暴力、あるいは、弾圧を逃れて、自分のいのちを守るために、貨物列車の屋根にのぼり、ある場合は、数か月かかって米国との国境までたどり着きます。貨物列車は、ベスチア（野獣）と呼ばれ、文字通り、危険に満ちた

もくじ

巻頭言 …… 1
第 77 回運営委員会議事録 …… 3
宣教者からのお便り …… 9
こんにちは！お久しぶりです …… 18
ザ・メッセージ ECHO …… 18
新入会員・事務局より …… 20

旅で、まず、つかまる所のない貨物列車の屋根の上で、雨、嵐、風にうたれ、カーブや、スピードで、転げ落ちる人も、少なくありません。さらに、貧しく、無力の移住者を食い物にする麻薬密売者が、待ち受けていて、追剥、強盗の餌食となります。

ベスチアを利用する移住者のために、イエズス会難民センターが、メキシコ市から 166 キロ離れたウイダルゴ州のウイチャパンで、宿泊施設を開いています。居眠りをすれば転落する危険のある旅は、途中で列車を降りなければ、続けることは不可能です。ウイチャパンの宿泊施設は、「巡礼者の家」と呼ばれ、旅を中断した人たちが、シャワーを浴び、食事をし、休み、清潔な着替えをもらって、一泊して立ち去ります。「巡礼者の家」の大きな目的は、衣食住の提供だけでなく、彼らの話を丁寧に聴くこと、ともに祈り、「巡礼者」が、癒しと慰め、励ましを感じて、危険な旅を続ける勇気を与えられることなのです。シスタージョイは、ここで奉仕していますが、コロナが始まってから、ベスチアが使えなくなったにもかかわらず、「巡礼者」は、到着し続けているそうです。また、以前よりも、一人ひとりの宿泊日数が多くなったため、場所、食料などの確保が困難になり、寄付を集めるためにスタッフが苦労しているという連絡もありました。トランプ政権は、移民、難民を拒否する政策をとっているため、ようやくの思いで、国境までたどり着いた人たちが、メキシコに送りかえされ、こどもと引き離され、収容所に入れられるなどの悲劇が続いています。さらに、収容所は、文字通りの３密状態で、感染予防も徹底せず、きわめて危険な状況です。メキシコでは、米国とブラジルに続いて、感染者と死者が増え続けています。

移民と難民の問題は、米国だけでなく、全世界の課題ですが、なぜ人びとは、自分の故郷、祖国を離れて、見ず知らずの場所に危険を冒して行くのかを考えると、冒頭に述べた現代世界の不条理が見えてきます。中南米だけではなく、アジア、アフリカの多くの国ぐにでは、大部分の人々が、安心して、人間らしい生活を生きられない状況があります。恒久的な貧困、政治的抑圧、腐敗、紛争、差別が、構造的な不正として、その国の憲法では謳われている基本的人権を侵害しています。コロナウィルスは、世界でもっとも金持ちである米国でのアフリカ系米国人にたいする深刻な差別を暴き出しました。４億人のこどもが極度に貧しく、毎年 7,000 万人が、自分の住んでいるところから強制的に移動させられている現代の世界の現実が、「普通」と言えるのでしょうか。コロナウィルスが、私たちに問いかけているのは、コロナが収束する時、私たちは、新しい普通、今までとは違う普通の世の中を実現しなければならないということではないでしょうか？

□■□ 第 77 回運営委員会議事録 □■□

日　時：2020 年 6 月 20 日（土）　15:00~17:00

場　所：フランシスコ会聖ヨゼフ修道院　2 階会議室

議　事

Ⅰ．2019 年度活動報告 ：すべて承認された。

◎所在地　東京都港区六本木４－２－３９

◎委　員　顧問司教：山野内倫昭司教（さいたま教区）

会　　長：村上芳隆神父（フランシスコ会）

運営委員：伊藤厚志、Sr. 桐野香（F.M.M.）、後藤由美子、島上麻子、諏訪なほみ、長井甫、中村文子、Sr. 延江由美子（M.M.S.）波多野光男、波多野真理子、Sr. 日高和子（A.C.I.）、山田真知子

◎会　議　運営委員会開催　2019 年 6 月 15 日、9 月 21 日、12 月 7 日、2020 年 3 月 14 日

◎諸活動

1）広報活動

a. 宣教地からのレポートと国内会員の声などを掲載した広報誌「きずな」を年４回（6、9、12、３月）発行し、国内会員と海外で働く宣教者に送付し相互の交流と宣教者の現地活動を、日本の多くの人に伝えた。ホームページも定期的に更新。会員外にも広く活動を告知。

b. 海外宣教者のお話を聞く会

2019 年 10 月５日（土）ニコラバレに於いて Fr. 村上芳隆（フランシスコ会）・Sr. 佐野浩子（F.M.M.）にお願いした。会場は消防法の関係で募集が難しく参加者が思ったより少なかった。来年は場所を含め改めて考えなおすことになった。

c.　カトリック新聞に会の情報を掲載、新入会員獲得につながった。

2）援助活動

世界各地の宣教者から申請のあった援助について、資料を基にして実情や内容について運営委員会で検討し、緊急性や必要性の高いものから援助を決定し、実行。

当年度の支援総額 3,864,857 円。世界的な病 covid-19 の影響でシエラレオーネの Sr. 白幡和子への送金は年度内には送れず次年度に予定。詳細は別紙の通り。

3）宣教者への支援活動

寄付された雑誌や、カトリック新聞等をアフリカ、南米の国中心に送付。

しかしながら、2020 年２月終わりころから南米ブラジルなどの国が海外からの郵便の受け取りを拒否するようになり、日本からスムーズに送ることができなかった。海外便

を世界に強い日本クーリエサービス（株）に依頼したが、荷が少なく船が出なかった。

4）その他

・2019 年終盤から covid-19 の世界的な蔓延により、日本でも 2020 年 4 月から 2 か月間ほど自粛期間が続き、事務所を継続的に開けることができなかった。そのため宣教者の事務所訪問も叶わなかった。自宅にて仕事を継続せざるを得なかった。

・各宣教者へ「きずな」12 月号に同封してクリスマスカードを送付。

・ 教会バザー：徳田教会のバザー、成城教会の対外協力デーなどに参加し収益金の目的だけではなく会の宣伝、啓発にも寄与することができた。

新入会員 31 名（個人会員）　　入金件数 413 件（個人、修道会、教区、教育関係他）

Ⅱ．2019 年度決算報告：別紙のとおり承認された。

寄付は少し増えたものの、宣教者からの援助申請が今年も少なかった。

2019 年度 会計決算

(1)入金の部

海外宣教者を支援する会　　（金額単位：円）

項　目	2019年度予算額	2019年度決算額	摘　要
会費寄付金入金	9,000,000	10,708,846	
基金取崩し	0	0	
雑収入	0	0	
預け金利子	20	22	
前年度剰余金	4,358,092	4,358,092	
合計	13,358,112	15,066,960	

(2)出金の部

（金額単位：円）

項目		2019年度予算額	2019年度決算額	摘要
援助費		6,000,000	3,864,857	ＳＴ払いＳＴ口座より＄4,610援助
研修費		50,000	50,000	講演会謝礼含む
基金繰入		0	0	
	広報	1,100,000	995,308	「きずな」年4回、カトリック」新聞広告
	印刷費	500,000	286,217	封筒、宛名印刷、コピー機リース代
	通信費	1,300,000	1,421,879	「きずな」国内外発送費、電話代
	事務用品費	20,000	22,258	文房具、コピー紙A4,B5

運営経費	維持管理費	1,580,000	1,565,381	事務所維持費
	支払手数料	120,000	138,318	寄付振込手数料、送金手数料など
	交通費	160,000	140,026	「きずな」発送、会議参加他
	会議費	20,000	20,000	運営委員会年4回会議室費
	雑費	45,000	50,118	委員退任選別、お歳暮代
	備品	3,000	11,737	電卓、情報ハンドブック2冊
	予備費	0	0	
	小計	4,848,000	4,651,242	
当期支出合計		10,898,000	8,566,099	
次期剰余金		2,460,112	6,500,861	
合計		13,358,112	15,066,960	

2019年度 援助費

NO	国名	金額(円)	内容
1	チャド（ライ）	350,000円	シスター泉淑美（ショファイュの幼きイエズス修道会）①2018年開設の子どもの識字教室継続のための教材費、2019年10月～2020年5月と2020年10月～2021年5月までの分20万円②16ヶ月間の先生たちへの謝礼15万円
2	メキシコ（ソヤ）	1,000,000円	シスター真神シゲ（ベリス・メルセス宣教修道女会）メキシコのソヤの16教区を、お世話と宣教のため走り回る車が現在無いので、是非とも悪路をも十分に走ることのできる車の費用として￥1,000,000を。
3	東テイモール	177,353円	シスター中村葉子（聖心侍女修道会）東テイモールで人材を育てるための第一歩であるファヒレボ村2011年創立聖ラファエラ幼稚園の遊具一式と輸送費など＄1,700。
4	インド	339,128円	シスター延江由美子（メディカル・ミッション・シスターズ）北東部管区アッサム州とナガランド州１．アッサム州のスンダリ共同体で5歳～12歳の教育支援のための設備。2．短大に行くために寄宿生の為の備品や貯水タンク他に音響設備。
5	モンゴル共和国	$310	シスター小島華子（サレジアン・シスターズ）から教会や学校を回って音楽教育を行うため車のガソリン代1年分（一時帰国時に手渡し）
6	チャド（ライ）	210,000円	シスター平静代（ショファイユの幼きイエズス修道会）よりレーヌ・アンティエ幼稚園の机、椅子の老朽化により使用不能のため作成費、椅子90脚、机20コすべて木製
7	ドミニカ共和国	830,000円	シスター小森雅子（ショファイユの幼きイエズス修道会）からレーヌ・アンティエ小学校の机付きの椅子120脚、教師の机と椅子購入費。
9	フィリピン（ブラカン）	$4,300	シスター弘田しずえ（ベリス・メルセス宣教修道女会）エコシステム共同体ケアスを開設、様々な栽培物、キノコの養殖を通して体験学習と祈りの場を提供。様々な物を栽培、家畜の世話などの費用、研修会費、管理費など。
10	カンボジア	368,000円	浅野美幸（ＪＬＭＭ）からカンボジア、プノンペン市郊外貧困地域における、「お母さんたちの収入創出のためのおから菓子開発」。研究家を日本から派遣するためのプロジェクト全般。お菓子開発と販売をもみすえて。
11	シエラレオネ	65,000円	シスター白幡和子（御聖体の宣教クララ修道会）ルンサーにおいて、宣教活動の車のため、また学校や修道院で発電機を可動させるためのデイーゼルを買うお金が必要。是非１年分を援助して頂きたい（６ヶ月以上電気無しの生活が続いている）

12	カンボジア	424, 270円	シスター橋本進子（ショファイユの幼きイエズス修道会）1. カンポートカトリック文化センターの図書館管理と常設書籍代$510。2. 7つの村（別紙）の読書室管理費＝$2, 940・本代と教材費$50*7ヶ所＝$350
13	国内	166, 106円	クリスマスカード、カトリック新聞や、雑誌を海外宣教者へ発送。
	合計	3, 864, 857	みずほの円口座より支払い
	合計	$4,610	みずほの＄口座より支払い
*11	シエラレオネ	65, 000円	シエラレオーネ白幡和子への送金はコロナで〆後次年度となったため合計に入れず。

＊レートは一律ではありません。

2019 年度 貸借対照表

2020 年 3 月 31 日現在
（金銭単位　円）

資産の部		負債及び剰余金の部	
郵便局振替貯金	1,158,364	期末剰余金	6,500,861
みずほ銀行高田馬場駅前支店	5,342,160		
小口現金	337		
合計	6,500,861	合計	6,500,861

援助基金内訳

	金額単位（円）	金額単位（$）
郵貯銀行	9,797,816	
三菱東京UFJ銀行 普通預金	4,326,823	
みずほ銀行高田馬場支店　外貨普通預金	384,075	3,440.61
合計	14,508,714	3,440.61

援助基金推移詳細

郵貯銀行	前年度繰り越し	9,797,795	
	利息	21	
	小計	9,797,816	
三菱東京UFJ銀行	前年度繰り越し	4,326,787	
	寄付	0	
	利息	36	
	経常勘定へ	0	
	小計	4,326,823	
みずほ銀行外貨＄預金	前年度繰り越し	918,728	8,230.12
	出金	535,824	4,800.00
	利息	1,171	10.49
	小計	384,075	3,440.61
		14,508,714	

＊ ＄＝￥111.63　　ドル援助合計＄4610.(手持ち＄190.00残り

2019 年度 会計監査報告

2019 年度会計報告を監査したところ適正であることを認めました。

2020 年 6 月 12 日

長井 甫

監 査 役 長井 甫

Ⅲ. 2020 年度の活動計画・予算審議：別紙のとおり承認された。

会　議　運営委員会　年 4 回開催予定（6 月、9 月、12 月、2021 年 3 月）

諸活動　1．広報他　・会報誌「きずな」年 4 回発行 3500 部発行、会員他に送付

・ホームページの運営による広報活動

・カトリック新聞に広告掲載

・各教会にきずなを置かせていただく

・お話会などの中で会報誌、パンフレットを配布

2．援助　・宣教者の申請プロジェクトを運営委員会で審議の上、援助金送金

・宣教者へ会報誌「きずな」を毎号直接送付

・宣教者へカトリック雑誌、カトリック新聞などを送付（一部地域）

・宣教者へクリスマスカードを送付（全員）

3．講演会・勉強会

一時帰国中の宣教者、完全帰国した宣教者・修道者などを招いてお話会開催

4．その他　・一時帰国された宣教者とのコンタクト、インタビュー、原稿を依頼

・会の PR もかねて直接教会バザーへの参加

2020 年度 会計予算表

(1)入金の部

（金額単位： 円）

項目	2019年度決算額	2020年度予算額	摘要
会費寄付金入金	10,708,846	10,000,000	
基金取崩し	0	0	
雑収入	0	0	
預け金利子	22	0	
前年度剰余金	4,358,092	6,500,861	
合計	15,066,960	16,500,861	

(2)出金の部

（金額単位： 円）

項目		2019年度決算額	2020年度予算額	摘要
援助費		3,864,857	6,000,000	
研修費		50,000	50,000	講演会講師交通費、謝礼他
基金繰入		0	0	
運営経費	広報	995,308	1,000,000	「きずな」年４回発行・新聞広告他
	印刷費	286,217	290,000	封筒・宛名印刷・コピー
	通信費	1,421,879	1,450,000	「きずな」国内外送料・電話・郵便・サーバー費
	事務用品費	22,258	23,000	ラベル・コピー用紙他
	維持管理費	1,565,381	1,600,000	事務所献金・人件費1名・電気代・団体登録費
	支払手数料	138,318	140,000	振込・送金手数料
	交通費	140,026	140,000	「きずな」発送・会議参加交通費他
	会議費	20,000	20,000	運営委員会年４回
	雑費	50,118	20,000	弔慰金他
	備品	11,737	100,000	事務所PC1台,シュレッダー,
	予備費	0	0	
	小計	4,651,242	4,783,000	
当期支出合計		8,566,099	10,833,000	
次期剰余金		6,500,861	5,667,861	
合計		15,066,960	16,500,861	

「備品費」にバッテリーも弱く古くなった事務局の PC を買い替える予算が組み込まれている。

Ⅳ.「きずな」151 号について

・新型コロナ・ウイルスの影響で困難もあったが少しずつまとめることができた。

Ⅴ.「きずな」152 号の巻頭言について

・巻頭言は：ベリス・メルセス宣教修道女会　Sr.弘田しずえに依頼した。

Ⅵ. 援助申請審議について

・東ティモールの Sr.荒井祥恵（聖マリア修道女会）より東ティモールのアタウロ島にて修道女 6 人が宣教活動を開始するにあたり、場所の整備、衛生設備、家具、書籍教材、教

具など費用の合計＄13,500.00 の申請。別紙参照。　　宣教開始のため全額援助決定

Ⅶ. その他

1．10 月 3 日（土）成城教会でのお話会ちらしはこれから作成 9 月きずなに載せる。

2．新型コロナ・ウイルスによる影響で「きずな」国内は業者発送 2,956 通、事務所発送 132 通。

3．壊れたパソコンを 4 月に買い替えた。

4．ゼロックスはすでに保障期間を過ぎ、調子が良くないので新規リース借り換え検討中。

5．今後の予定

・「きずな」152 号の瀬田発送は 9 月 3 日（木）再開、事務所発送は 9 月 4 日（金）。

・次回運営委員会　9 月 12 日（土）15 時～聖ヨゼフ修道院 2 階会議室。

宣教者からのお便り

東ティモール　◆ディリ◆

国民が一丸となっての取り組み

聖心侍女修道会　中　村　葉　子

東ティモールでのコロナ感染は他国に比べて大変遅く始まったため、政府が、十分な情報を得ながら、防止、治療に当たることができました。経済的に貧しく、医療レベルも他国に比べられないほど低いこの国で、現在に至るまで、一人の重症者、死者も出ていないのは、政府、国民が一丸となって、取り組んできたことの実りであると同時に、神様の特別なお恵みである、と感じています。ただ、現在、緊急事態宣言が２度繰り返されている状況で、人々の日常は非常に厳しく、食糧不足が蔓延しています。当方の低栄養児プログラム関連でも２歳の女児がこの間、死亡（彼女の母親も今年初めに栄養不良で死亡）、一人の母親が出産時に死亡しています。私たちの若いシスターたちが通っている大学でも、３ヶ月の休みの間に幾人かの女子学生が家庭の経済難から、大学を退学して結婚させられた（結納金が得られるため）、という、日本では考えられないケースが見られます。ポストーコロナで、私たちの修道院が何にどのように取り組めるか、これからきちんと現状を把握して、準備していきたいと思っております。皆様のご無事をお祈り申しあげ、ご支援に心より感謝申し上げます。

カンボジア　◆プノンペン市郊外◆

コロナ禍におけるカンボジアへの支援

ＪＬＭＭ（信徒宣教者会）事務局長　漆 原 比呂志

カンボジアでは３月中旬より全国のすべての学校が休校になっており、再開は 11 月頃と見込まれています。それに伴い、JLMM「子ども

「子どもの家」の識字教室

の家」識字教室、託児所など集会を伴う活動はしばらく休止しておりました。

「支援する会」の皆様からご支援いただき企画を進めていた、おからを活用した栄養改善プログラムも、大変残念ながら一時休止の状態です。

派遣者の緊急帰国以来、現地スタッフと東京事務局は毎週のオンライン会議によって、日々の活動の運営を継続しております。

そんな中、近隣住民の方々から、「子どもの家」識字教室の再開を待ち望む声をいただき、６月中旬より、３密を避ける、マスクを着用するなど感染防止対策を施し、規模を縮小した形で活動を行っています。

コロナ禍の中、私たちの支援プロジェクト実施地域のゴミの収集により生計をたてている困窮世帯では、識字教室が休止となったため、当団体はじめ、地域の支援団体の給食がなくなり、子ども達の栄養不足が課題となってきています。さらに、家族が家にいることで、支出が増え家計がひっ迫し、今まで以上に貧困が深刻となっています。

また、ゴミの買い取り価格が下がる、縫製工場が休止となり雇止めになるなどの影響もあり、収入が激減している家族も多い状況です。

「食べるものも確保できず、感染予防のために衛生状態を保つことがとても難しい。コロナ以前と比べて、生活が本当に苦しくなった」という地域住民の声があります。

JLMM では現在、生活困窮者 165 家族に向けて、米・魚の缶詰・油・調味料・石鹸などの「食糧パック」を配布する緊急支援を準備中です。

また、当会事務局としても、1982 年の設立以降初めての派遣者ゼロ状態、また派遣前研修、スタディツアーや全国各地でのイベント中止など、これまでになかった状況に直面しています。こうした中でも、現地と日本の人びとをつなぎ、関わり続ける使命を果たすべく、オンラインによる企画を進めています。

世界各地とオンラインでつなぎ、「共に生きる」メッセージを発信するプログラム、「トモニイキルチャンネル」をぜひご覧ください。

1日も早いコロナの終息を祈りながら、いま私たちに与えられたミッションを生きたいと思います。今後とも皆様のお祈りとご協力をお願い申し上げます。

ブラジル　◆モジ・ダス・クルーゼス◆

ブラジル日本移民112年

コンベンツアル聖フランシスコ修道会　松　尾　繁　詞

1908年6月18日、笠戸丸で、781人(158家族)が、サントス港に上陸してから112年が経ちました。イスラエルの民族がパスカを毎年記念するように、ブラジルの日系人はこの日を忘れない。パスカの儀式の中で子供が父に「お父さん、どうして今夜は盛大な晩餐をするの？」と問いかけるように、「どうして私たちはブラジルに来たの？」と問いかけることは意義深いと思います。しかし、予定されていた社会的な記念行事は、コロナウイルスの世界大流行のために中止になりました。

ブラジル司教評議会のオリエンテイションに基づいて教会も閉鎖されました。各小教区によっては司祭と必要な少数の奉仕者の協力で日曜日のミサや毎朝の祈り、聖体礼拝式、公教要理など、オンラインを通して試みられています。

パニブ（日伯司牧協会）の予定していた宣教者大会も、二年に一度のアパレシーダの聖母大巡礼も中止になりました。今年は、第二十五回目の巡礼ですから、五十年の月日が経過しています。記念すべき巡礼の年になる筈でした。

ところが何週間か前、アパレシーダの聖母大聖堂の主任司祭から、すべての人々の参加は赦されないけれども、予定されていたソロカバ大司教区のドン・ジュリオ赤嶺大司教と少数の信徒の参加で予定通りミサを捧げ、予定通り、TVでの放送を行う旨の嬉しい連絡が届いたのです。八月は広島・長崎に原爆が投下され、第二次世界大戦が終結した時です。私たちは、この巡礼で世界の「平和」を祈ってきました。今年は、このパンデミア、日本の水害に苦しむ人々のための祈願の日にしたいと思っていたので、アパレシーダ大聖堂のご配慮を感謝しています。

ブラジルの日本移民への福音宣教は、このアパレシーダにいたレデンプトール会のローレンソ・フブバウエル神父によって始まったと言ってもよいかも知れません。

ピンタモニャンガバ駅から20キロ離れたサプカイア農場に米作を主とする20余家族に、独日辞書を片手に日本人の福音宣教を始め、彼の熱心さから日本語で分かるカトリックの教えに関する書籍、新聞などの取り寄せることと　日本語の話せる神父派遣の必要が生まれたのです。そこには日本人信者は誰もいなかったので、神父はローマ教皇庁に問い合わせ、中村長八神父の来伯に繋がっていくのです。アパレシーダの聖母を訪れるごとに、その御摂理の不思議さを感じています。

最初、日本移民は、「水に溶けない硫黄」として排斥されましたが、時間と共に誠実さを認められ、世代と共に言語の障害が崩れるに従い、共に学び共に生活向上を戦いました。独裁政権の弾圧の中で、経済不況の中で、今、パンデミアの中で、共に戦っています。運命を共に生きています。

見えないウイルスとの戦いが、見えない人間

の大切な心の絆を生み出す恵みの時となりますよう、ブラジルのためにお祈りください。

何時も変わらないご支援を感謝しながら

南アフリカ　◆ヨハネスブルク◆

これからが危険な時期に

イエスの小さき姉妹会　片　井　暁　子

今日、冊子を受け取らせていただきました！３月末から今も続くロックダウン（レベルは３に緩められましたが）で郵便物の受け取りを全く当てにしていなかったので嬉しいサプライズでした。本当にありがとうございます。きっとロックダウン前に国内に着いていたのだと思いますが、日本人の仕事に対する姿勢と全く違い、南アフリカはますます汚職が酷く、パンデミックでなくとも郵便を受け取るのは難しくなっています。内部犯罪で封筒に少し厚みがあったりすると開封されたり届かなかったり、でも雑誌などは余り興味がないようで幸い?!でした。（まして日本語ですから）

こちらのコロナパンデミックはまだピークに達していないとの事で特にこの２～３週間がとても危険な時期とも言われています。２千人分の墓が用意されているとか?! 西ケープ州はイタリア、スペインのような事になるとかとも言われていてとても心配しています。我々はともかく家から殆ど出ないで過ごしています。以前にも増して祈りの時間を取り日々を過ごしています。こちらの人達はこのウイルスの危険性を真剣に受け取っていないのでマスクも無しで平気で歩き回っている様子を度々見かけます。すぐお隣のイスラムのご夫婦は共に入院されていましたがご主人が一昨日亡くなられ奥さんも人口呼吸器で意識なしの状態だそうです。息子さんから祈りを願われています。共にお祈りください。

皆様のご奉仕に心から感謝しています。どうかお身体を呉々も大切にして下さい。

チャド　◆ライ◆

貧しい人は幸いである

ショファイユの幼きイエズス修道会　松　山　浩　子

お元気ですか？世界中が今 covid-19 で亡くなったり苦しんだりしているのにチャドの人々特に、私の住んでいるところは一人も患者は出ていません。それだけ田舎なのでしょう！新しいシスター近藤とシスター泉と私で何とか炭と木の枝を使って料理してます。シスター平とシスター有薗が今年休暇で帰国されるので、取り急ぎお便りを書いています。カトリック生活の雑誌をたくさん本当にありがとう!! ３月 19 日以降、カメルーンの日本大使館から電話がありました。「もうすぐ空港が閉まるので、今しか出られない、大丈夫ですか？」私「なんとか元気に皆生きてます！」

７月に入ってやっと空港が開いて以前週３回フランス行きのヒコーキがあったのに、今１か月に１回 !!! Air France も人員を削減帰れるのか？日本へ。NHK world の TV を見たら７月に入って東京で 100 人以上の（covid-19）患者さんが見つかるとか？中国から初めて見つかった病気がこんなに流行するなんて。Tchad のテレビもその病気でどれだけマスク、消毒

薬、石鹸をどの地方にどれだけもらったか？のニュースばかりです。

ラジオもニュースも聞けないこども、田舎の人々は何も知らずに、田、畑を耕し元気に過ごしています。“貧しい人は幸いである”を実感します。刑務所の方にもまだ行けず学校の３学期も９月 15 日から 10 月の授業まで点数をつけなければなりません。LAI 地区は３人もチャドの司祭が辞めて、その中の一人が私が教えている小神学校の神父様でした。それでも必要とされ私は働かなければなりません。

日本では母がアルツハイマーでグループ・ホームに入っています。熊本は豪雨で土砂崩れ、私の妹も弟もそれぞれ家族が大変で教会にも行ってません。先祖代々の信者だったのに今まで経済中心で本当に“神”様を大切にして生きてない！

周囲の人々との関わりがいかに大切か？というのを感じます。

私も貧しい人々から「神様があなたを祝福しているよ！」と言って下さいます。何とか喜ばれていることに感謝しつつ祈ってます。

シエラレオネ　◆ルンサー◆

コロナで全ての学校が閉鎖

御聖体の宣教クララ修道会　白　幡　和　子

日本もまだコロナヴァイルスは動いているようで自粛も続いているのでしょうね。こちらはニューヨークタイムズによれば、シエラレオネには現在 1,176 の感染が確認され死者は 51 人だそうです。３月の末に大統領は１年間の緊急宣言を出し、４月１日からすべての學校は閉鎖され、教会モスクでの集会も禁止されましたが、マケニの司教様は教会では神父様とシスターたちは毎日のミサに出てすべてのコロナヴァイルスで苦しんでいる方々のために祈ってくださいといわれました。エボラの恐ろしい経験があるので、用心しての急宣言だったでしょうと思います。それ依頼３回ほど３日間の外出禁止令が出されました。食品を買いだめすることは一般の人々にとってはとても不可能なことなのです。買っても保存する冷蔵庫があるわけではなし、まずその日の食糧を買うのが精いっぱいの人がほとんどなのです。人々はあまりコロナのことは気にしていないようで、先月まではフリータウンでは 10％くらいの人がマスクをしていましたが、今週はほとんど見られないそうです。ルンサーでのマーケットはいつもの賑わいを見せています。私は年寄りなので外に出ないように言われています。フリータウンの大きな病院でなければコロナにかかったかどうか検査をすることが出来ませんから、ルンサーンも含めてほとんどの町や村でどのくらい感染者が存在するかなどわからないと思います。フリータウンから来た人５人がルンサーにいることは知りました。私達も手を頻繁に洗うことと人と近くで話さないことに気をつけることはしています。もう３か月も子供たちの姿を見ないのはとても寂しいことです。私達は午前中は毎日ご聖体の前で昼食まで礼拝をして、午後は夕方の祈りの時間までお互いにお裁縫、コンピューター、ギターなどを教えあっています。私は２人のシスターにピアノを教えています。もっと多くのシスターたちが習いたいと言ってきまし

たが、一つのキーボードしかないので練習をする時間も無くなるので断りました。私は昨年末に軽い脳梗塞があって右手が麻痺したので指のリハビリのために時間を見つけてピアノの練習をするようにしています。

少しずつですが、良くなっているので神に感謝です。その他の時間は子供たちのために布でお人形を作っています。多分９月まで学校はひらかないでしょうが、国の共通の試験がある小学６年生と中学３年生は来月から学校にくるようです。

インドネシア　◆ムバタ◆

ベルナルデュス神父からの礼状

聖心会　井　上　千壽代

『2014 年から、私は、フロレス島、ムバタ村の聖テレジア教区に送られてまいりました。この地域は、町と言われるところからも、遠く、不便なところにあります。特にこの村にたどり着くまでの道は、岩だらけで、電気は、届いていませんでした。（2019 年に届きました）飲み水も、水浴びの水も、不足で、毎日子供たちの仕事です。99％の村人は、農民です。赴任当初は、だた、村人たちとのコミュニケーションがまず

元気いっぱいの子供たち

大事だと、そのために時間をつかっていました。貧しい小さな人々を励ますのが精一杯でした。2016 年に私は、カトリック学校を建てました。（インドネシアでは、文科省の外に、宗教省があり、イスラム学校はたくさんありましたが、カトリック学校は、十数校しかありませんでした。）これは、貧しい人々にしっかりした教育の機会を与えたいと考えたからです。いくら貧しくても、しっかりした教育を受ければ、きっといい指導者になり、社会を動かせると信じたからです。わずか２か月で、宗教省の許可がでたのは、神様のお働きと信じるほかありません。普通は、２年か、３年または、10 年近く許可が出るのを待たなければならないのです。この短期間に、許可が出たのは、奇跡のようで、私自身のみならず、村中の人々の喜びは、大変大きなものでした。2016 年、６月から授業が始まりました。男女ともに、全寮制でスタートしました。

わたしは、ココナツの葉の茎をつなげた、壁の臨時の小屋を２棟用意しました。教室は、小学校の教室を午後の時間に借用させていただきました。

この高校は、毎年希望者が、ムバタ村だけでなく、フロレス島のあちこちから、希望者が増え、現在 150 人の生徒が在籍しています。一部屋だけ、バラックを立て、先生と、生徒たちの自習室として、使用してきました。2017 年から、校舎の建設が、宗教省によってはじめられ、2019 年の６月には、２階建ての職員室と５教室が整いました。

ところが、2019 年 10 月には、どうしても、寮の建設が必須状態になってしまいました。と

いうのは、この地域は、山間なので、よく突風がふきます。それと大雨が降り、最初の寮の２棟が、全壊してしまいました。

以上、ご報告させていただきます。いつも、この田舎の高校生たちのためにご援助心から、感謝しております。何もお返しはできませんが、毎朝のミサの祈りの中で、ご援助いただいている日本の皆様のために、心から、お祈りいたしております。心から感謝いたしております。』

カンボジア　◆プノンペン◆

終息願い祈りのリレー

ショファイユの幼きイエズス修道会　橋　本　進　子

世界的に流行中の Covid-19、何時終息するのでしょうか。当初、日本の取り組みがゆったりで大変心配していました。取り組みが動き出すと日本らしさが見えてきました。感染者ゼロの県も出てきたようで終息が何時になるのか不安の中でもほっとしています。

カンボジアでは政府の取り組みは迅速でした。政府は感染予防の３つの取り組みを呼びかけ、学校は全面休校になり、学校の休校は６月現在も解かれていません。当初から６月現在までの感染者は 165 名、政府が決めたひとつの病院で検査治療を受け、現在入院者は２名で他は全員退院しています。しかし、165 名という数字は正式に入院した患者で実際どれだけの感染者がいたのか、現在もいるのかは疑問です。しかし、Covid-19 の後遺症は大きく、６月３日のカンボジア政府の発表では、工場企業の閉鎖数は 433 で、内繊維工場等は 263、ホテル関係は 170 で失業者は 152,000 名、内繊維関係者は 135,000 名、観光事業関係者は 17,000 名です。しかしこの数は企業会社関係の数ですので個人経営の大小の店等は不明で、ずーと大変だろうと思います。失業手当と言うのでしょうか、政府は５月 28 日から６月３までに 2,400 万ドルの補助金を出しています。更に 12,000 万ドルを準備中とのことです。フンセン首相は Covid-19 が始まった３月の時点では国籍を問わず、感染者は全員検査治療費はゼロと宣言しました。“We are poor, but heart big”と寛大でしたが、感染者の多くが他国からの入国者のためでしょうか。外国人感染者には＄3,000 の保証金が課せられることになりました。

現在、カンボジアでの生活は感染予防の３つの取り組の呼びかけは続いていますが、日常生活は平常です。町中や道路の車、ツクツク、バイクの往来は Covid-19 以前と変わりなく、市場や小さな食堂は人、人でいっぱいです。日系のイオンや銀行など大きなところに入る時、入り口で体温を測られ消毒が課せられています。学校は国公立や私学を問わず休校が続いています。いつ解除されるのかは全くわかりません。先生方は半日勤務であったり交代勤務であったり様々です。

カトリック関係、プノンペン教区では聖霊降臨の祭日までミサは一般的にはなく ONLINE で信者は参与していました。一週間前、三位一体の祭日から座席を離して参列できるようになりました。オリヴィエ司教の配慮はきめ細やかで毎日のように教会や修道会、各グループで祈るように呼び掛けられ、感染者のため終息のためまた世界平和のために祈りのリレーは続いて

います。

私たちSr.園田国子とSr.橋本進子はおかげさまで元気です。Sr.園田は園児たちは休園中ですが、５月下旬からチョンカチアンとカンポートの先生方にモンテソッリー教育法による保育の教導指導を開始しています。Sr.橋本進子はカンポートのFLCC図書館の外に７つの村の小さな読書室の各月一回の巡回を続けています。その他の使徒職は変わりなく動いています。

最後になりましたが、大変お世話になっています。ありがとうございます。

チャド　◆ライ◆

幼稚園開設30周年

ショファイユの幼きイエズス修道会　平　静　代

コロナヴィルスの大流行で多くの家庭が影響を受けています。チャド国も例外ではありません。母子家庭、父親だけの、親が子供の教育放棄。特に母子家庭はこのコロナヴィルスの影響を強く受けています。母親の中には、毎日市場で日銭を稼ぎ子供を学校行かせるのですが、コロナの為に市場は閉鎖され、人々の生活を苦しめています。

新しい椅子と机

コロナヴィルスの大流行によってチャドは、３月20日から学校も閉鎖されました。レーヌアンティエ幼稚園、ナザレ寮（小中生）とベタニア寮生（高校生）も同時に閉鎖になりましたので寮生も各々の村に戻りました。2019～2020年度の授業プログラグム変更が余儀なくされました。試験クラスの高校の最終学年と中学最終学年は、特別に６月25日から７月25日まで授業を再開しました。８月３日から９日まで前期中等教育修了試験（BEF）が、８月17日から22日まで大学入試資格試験（バカロレア）の試験が行われます。試験が無事に終わり多くの学生が試験に合格するのを祈っています。

他のクラスは９月15日から始まり、年間の授業時間を補います。ただちに新年度に入ります。そのため、親の負担がこの時期に集中します。後期支払されないまま進級が危ぶまれている学生もいます。（義務教育制度はありません）

家族の経済状況も踏まえつつ、前期分又は前期後期分の援助を考えたいと思います。親の能力に応じて返済をしてもらう事も考えています。10月の新年度から直ぐにクラスに入れるように出来るだけ多くの子供達に行き渡るように考えています。ライ市には公立と私立のカト

リック系、プロテスタント系の学校があります。

今年はレーヌアンチエ幼稚園が開設され30年を迎えます。故シスター三宅洋子が始め、砂の上に文字を書き日本の新聞で兜を作り子供達、頭にのせている写真が思い出されます。現在は３つの教室と職員室があります。当時植えた木々も大きくなり陰を提供してくれます。園児全員が集まる朝、レクレションの時に充分なスペースを与えてくれます。

長年、海外宣教者を支援する会の皆様始めた多くの方々の祈りと物資の援助の賜物と改めて感謝の念で満たされています。新年度が始まりましたら園児が腰掛けている写真を送りたいと思います。

フランス　◆ジョンシー◆

人と人との関係を見直すよい機会に

ショファイユの幼きイエズス修道会　青　木　文　子

フランスの田舎でも、コロナウイルスの感染を防ぐために外出できない日が３か月ほど続きました。学校は３月22日に再開しましたが、親の判断で学校に来ない子供もいました。

私は幼児クラス（２歳児から５歳児）で助手をしていますが、19人中10人が登校していました。例年のように学校は休みに入りました。レストラン等はテラスでいただき、教会、スーパーマーケット、劇場など閉ざされた場所ではマスクの使用、隣の人と距離を取ること、手の消毒が必要です。司祭はご聖体を授ける前にも手を消毒し、マスクを付けたまま配ります。信者も一定の距離をおいて列をつくり拝領します。

この状態は、人と人との関係を見直すよい機会になったように思います。家族、隣にすむ人々、コロナウイルスのため、前よりも貧しい孤立した状態に陥った人々への配慮がより細やかに拡がったように思います。

「きずな」を読む度に色々な国でミッショネールの働きを知り、励まされております。皆様のご奉仕に感謝しつつ。

パキスタン　◆カラチ◆

順次平常時に戻りつつあります

フランシスコ会　松　本　貢四郎

先日の８月14日は、パキスタン独立記念日でした。例年なら、この日は盛大な式典が行われ、町は大勢の人で賑わっていたのですが、今年は寂しい独立記念日となってしまいました。

独立記念日の数日前、長かった６ヶ月間に及ぶロックダウンが解除され、商業活動が再開されました。パキスタン医師会からは、ロックダウン解除は時期尚早だという声明もあるようですが、これで一応は普段の生活に戻れることになりました。

パキスタン内の教会活動も順次平常時に戻り

つつあります。 毎日曜日に数回に分けて行われていたミサも、順次皆が一つに集まれるようなミサに戻りつつあります。

私が働いている障害児者施設も、今年の２月中旬からロックダウンの影響を受けて閉鎖され、既に６ヶ月間が経ちます。可愛い子供たちの顔が思い出されます。ロックダウン以前のように、元気よく明るく学べる日が早く来るように願っています。

学校、教育施設の再開は９月 15 日からと言うお触れで、もう一月待たなければなりません。私の住んでいる同じ敷地の中にあるパキスタンカトリック神学校も現在閉鎖中で、70 名近く居る神学生も神学校にもどれない状況が続いていますが、今再校に向けて準備中です。

最後になりますが、日頃から私が思っていること、宣教とはイエス様の教えてくださった福音に生きること、この一言です。どんな所でも、如何なる状況の中でも福音を信じ、喜び生きること、共に。

こんにちは！ お久しぶりです!!

事務局訪問の宣教者

７月 10 日 ―――――――――――― イタリア

聖マリア修道女会

Sr. 荒井祥恵

先日、海外宣教者を支援する会の事務所を訪問し、事務局長の山田さんにお会いして、東チモールのための支援金について丁寧な説明をいただきました。皆様の寛大なご協力に心から感謝します。Covid-19 のために、私達の東チモール行きは少し遅れますが、神様に信頼して続けて行きますので、宜しくお願い致します。先週の九州と岐阜で起こった災害のために亡くなられた方々、被災された方々のために祈ります。

ザ メッセージ（海外短信）

＊イタリア

聖マリア修道女会　荒井祥恵

東チモールへ 10 月に行く予定です。ただ、Covid-19 の状況次第で、それも遅れる可能性はあると思います。こういう状況です。また、随時ご連絡いたします。宜しくお願い申し上げます。では、健康にくれぐれも留意されてお過ごしくださいませ。

＊ドイツ

イエスの小さい兄弟会　塩田　希

主の平和！いつも便りを送ってくださりありがとうございます。 この度７月５日付けで本会、会員の茨木 留土はドイツ（母国）へ帰国致しました。長らくのご支援特にお祈りをありがとうございました。

ECHO

∵教会の庭に売店を出して売り上げを各所に資金援助して 45 年、少しずつ貯めたお金「いつ

使うか」「今でしょ」お祈りと共に

（調布カトリック教会　ゆりの会代表　前田欣子）

∵主の平和が全世界に広がっていきますように…。すべての生命を守るためにお祈りいたします。

（西東京市　高山協子）

∵コロナウイルスなど困難なことが多い中、宣教の働きを続けていることに感謝しています。祈ります。（匿名希望）

∵きずなに私の名前が、嬉しい。新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り、祈ります。（池田市　小林ひとみ）

∵皆様の事を想い、感謝と祈りを捧げております。イエス様の慈しみが皆様の上に豊かにありますように。アーメン　（都城市　木嶋えつ子）

∵この度国から 10 万円いただきましたので、何分の一ですが送らせていただきます。

（松戸市　萩原光代）

∵主の平和　神のあわれみといつくしみをお祈り致します。皆様お身体を大切に。

（狛江市　飯田恵美子）

∵世界中コロナで大変でしたね。無事でありがとうございます。感謝

（福岡市　長谷川千恵）

∵皆さまのお働きが祝福されますように。み心がお行われますように。

（鴨川市　細谷千恵子）

∵コロナ禍で苦しむ方がおられませんように、神のご加護がありますように。

（北九州市　髙瀬紀子）

∵きずなを大切に拝読しています。

（牛久市　松田　宏）

∵わずかですが、よろしくおねがいします。

（川崎市　坂詰美代子）

∵皆様のお働きありがとうございます。ニュースの便りありがとうございます。祈りのうちに。

（京都市　ヌヴェール愛徳修道会　九条修道院）

∵世界の人々の為にご活躍の皆様に心から感謝申し上げます。くれぐれもコロナ等に注意されてお元気にお過ごしの程お祈り申し上げます。

（世田谷区　森井朝子）

∵少しですが、令和 2 年の支援金をお送りします。（大津市　田甫本子）

「宣教者のお話を聞く会 2020」

来る 10 月 3 日（土曜日）に開催を予定しておりましたが、日本でも covid-19（新型コロナウィールス）の感染拡大があり、重症化されている方も出ておりますので、今回は残念ながら中止とさせていただきます。

本年はさいたま教区山野内倫昭司教の講演をお願いしており大変楽しみにしていましたが、来年の同じ時期にもう一度お願いしたいと考えております。皆様におかれましてはどうかその時まで、お待ちいただきますようお願い申し上げます。

日本カトリック海外宣教者を支援する会

新入会員（敬称略）

個人会員　10 名

戸村 孝明（長崎県長崎市）　伊藤 昌子（東京都調布市）　青木 紀子（東京都世田谷区）
榮　春彦（東京都世田谷区）細谷 千恵子（千葉県鴨川市）　三村 誠一（長崎県長崎市）
真嶋 樹恩（山形県飽海郡）　池上 浩之（京都府宇治市）　小島 昭子（東京都世田谷区）
Sister ダン ティビチ リュウ（福岡県福岡市）　☆立石 広海（沖縄県国頭郡）に訂正

事務局より

◎日本や世界で COVID-19 の感染拡大が未だ収束に至っていません。皆様くれぐれもお気をつけください。
◎本年 10 月 3 日（土）に予定しておりました「宣教者のお話を聞く会 2020」は中止いたします。お詫びしてお知らせいたします。
◎会費に対する領収書ご希望の方は当会までご連絡ください。
◎未使用の切手・ハガキのご寄付もお待ちしております、宜しくお願いいたします。
◎次回運営委員会（援助決定）は 9 月 12 日の予定です。

編集後記

◇新型コロナウイルスの影響で、ミサの中止が続いていましたが、徐々に条件付きで再開され始めました。講習会やイベントはしばらくの間自粛ですが、新型コロナウイルスの感染が完全に終息するまでには長い時間がかかると思います。なぜ、コロナ感染が起きたのか。その間、神様のお示しに気付くことが出来るよう祈り続けたいと思います。（い）

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106－0032　東京都港区六本木４－２－39
Tel. 03-5770-8753　Fax. 03-5770-8754
e-mail　kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp　URL　http://www.kaigai-senkyo.jp
・銀行振替口座　みずほ銀行高田馬場支店　普通　２０８４１１２
日本カトリック海外宣教者を支援する会
・郵便振替口座　００１４０－５－６７８８１　海外宣教者を支援する会